

# 史 跡 斎 宮 跡

平成22年度現状変更緊急発掘調査報告

平成24(2012)年3月

明 和 町

## 序

平成23年は、全国各地で大きな自然災害が発生いたしました。東日本大震災や台風12号で被災された方々や亡くなられた方々、行方不明になられた方々に対し、衷心よりお見舞いとお悔やみを申し上げ、一日も早い被災地の復旧と復興をお祈りいたします。

さて、町では、町の活性化を図るため作成した『史跡斎宮跡を核とした町の活性化基本方針』の実現に向け、「歴史まちづくり法」に基づく『明和町歴史的風致維持向上計画』の策定に着手いたしました。この認定を受けますと、国の支援をいただき、長年の懸案であった幹線排水路の整備や来訪者が快適に史跡内を回遊できる散策道の整備、誘導案内板の設置、多目的広場や便益施設など様々な整備が可能となることから、早い段階で認定されるよう努力いたしております。

また、三重県が実施いたします史跡東部整備事業の造成工事も昨年の秋から始まり、幅15mの区画道路などが整備され、徐々に「斎宮」があった当時の景色に変わりつつあります。そして、整備の中心となる3棟の復元建物の形も12月末に決まりましたので、今後は、平成26年度の完成に向けて着々と進めらるることを期待いたします。

町といたしましては、整備後の活用について、どのように町の活性化につなげていかを地域の人々に参画していただき、具体的な取組みについて早急に検討していかなければならないと考えています。

そして、発掘調査の成果では、日本最古の「いろは歌」が書かれた墨書土器が出土したことが大きく報道され、全国へ情報発信する絶好の機会となりました。

本報告書は、史跡地内で個人住宅等の建設などに伴い発掘調査が必要であった13件の結果についてまとめたもので、発掘調査にご理解とご協力いただきました地元地権者の皆さま、また、発掘調査から報告書作成に至るまでご協力いただいた斎宮歴史博物館調査研究課の方々に対してここに厚くお礼申し上げます。

平成24（2012）年3月

三重県多気郡明和町

町長 中井 幸充

## 例 言

- 1 本書は、平成22（2010）年度に明和町が実施した史跡斎宮跡（三重県多気郡明和町斎宮・竹川地区の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。
- 2 本書に掲載した調査は、国庫および県費の補助金を受けて実施したものである。
- 3 調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館および明和町斎宮跡課が現地調査を担当した。
- 4 調査区名の表示方法（例：6AR11）については、『史跡斎宮跡平成13年度発掘調査概報』（斎宮歴史博物館 2003）による。
- 5 遺構の平面図は、過年度との整合をはかるため、「測地成果2000」以前の旧国土座標第VI系に相当する座標系を用いて表示している。
- 6 遺構の時期区分については、『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』（2001）を基準とした。
- 7 遺構名冒頭の略記号は、遺構の形態から以下のように表記している。  
SA：柱列・塀 SB：掘立柱建物 SD：溝 SE：井戸 SF：道路  
SK：土坑 SH：竪穴住居 SZ：落ち込み等 SX：墓・不明遺構
- 8 図面・写真等の調査資料類および出土遺物は、斎宮歴史博物館で一括保管している。
- 9 本書の執筆は、泉 雄二（斎宮歴史博物館調査研究課）がⅠ前言・Ⅱ調査報告を、中野敦夫（明和町斎宮跡課）が付編を行い、編集は泉・中野が担当した。

# 目 次

I 前言	1
II 調査報告	
1 第170-1次調査	2
2 第170-2次調査	3
3 第170-3次調査	5
4 第170-4次調査	6
5 第170-5次調査	7
6 第170-6次調査	8
7 第170-7次調査	8
8 第170-8次調査	9
9 第170-9次調査	9
10 第170-10次調査	10
11 第170-11次調査	10
12 第170-12次調査	11
13 第170-13次調査	12
付編 史跡現状変更等許可申請	15

## 表・挿図目次

### 【表】

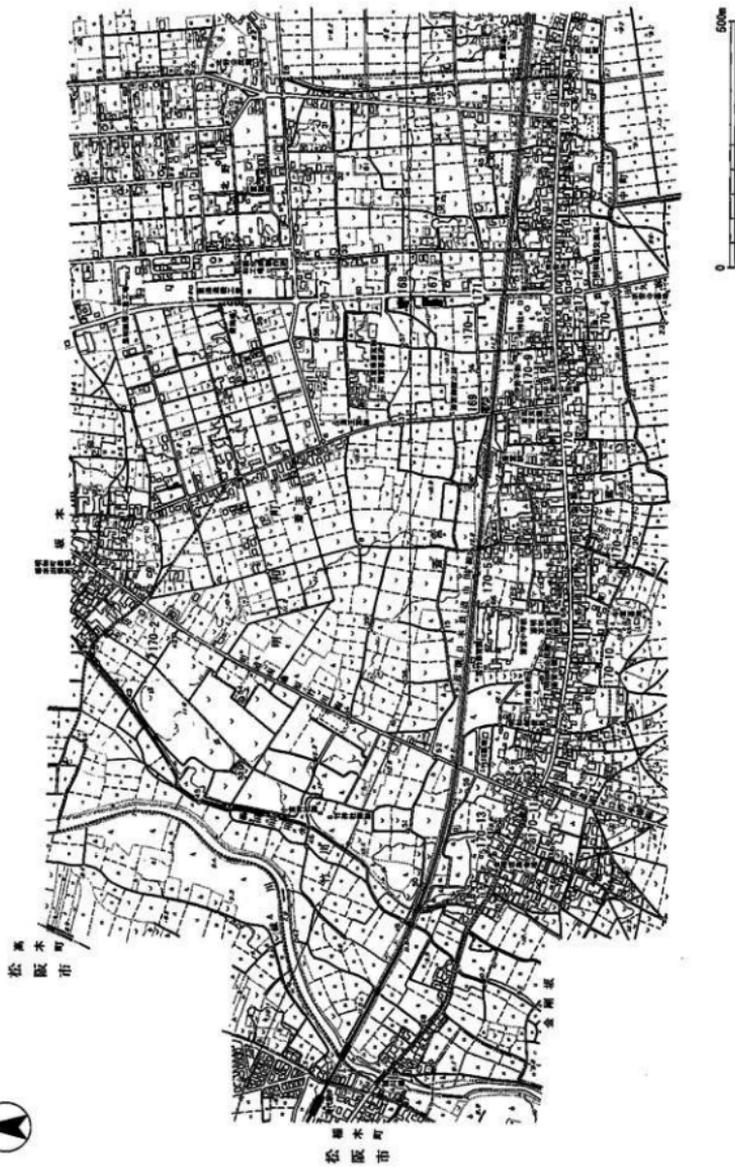
1 史跡現状変更等許可申請の推移	3 第170次調査 出土遺物観察表
2 第170次調査 検出遺構一覧表	4 平成22年度史跡現状変更等許可申請一覧表

### 【図】

1 発掘調査地位位置図(1:10,000)	16 第170-5次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)
2 第170-1次調査 調査区位置図(1:2,000)	17 第170-6次調査 調査区位置図(1:2,000)
3 第170-1次調査 遺構平面図(1:200)	18 第170-7次調査 調査区位置図(1:2,000)
4 第170-1次調査 遺構断面図(1:100)	19 第170-7次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)
5 第170-1次調査 出土遺物実測図(1:4)	20 第170-8次調査 調査区位置図(1:2,000)
6 第170-2次調査 調査区位置図(1:2,000)	21 第170-9次調査 調査区位置図(1:2,000)
7 第170-2次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)	22 第170-9次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)
8 第170-2次調査 出土遺物実測図(1:4)	23 第170-10次調査 調査区位置図(1:2,000)
9 第170-3次調査 調査区位置図(1:2,000)	24 第170-10次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)
10 第170-3次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)	25 第170-11次調査 調査区位置図(1:2,000)
11 第170-4次調査 調査区位置図(1:2,000)	26 第170-11次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)
12 第170-4次調査 遺構平面図(1:200)	27 第170-12次調査 調査区位置図(1:2,000)
13 第170-4次調査 断面図(1:100)	28 第170-12次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)
14 第170-4次調査 出土遺物実測図(1:4)	29 第170-13次調査 調査区位置図(1:2,000)
15 第170-5次調査 調査区位置図(1:2,000)	30 第170-13次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)

## 写真図版

1 第170-1次調査	上:調査区全景(北から)	下:SD7252(西から)
2 第170-2次調査	上:調査区東半全景(北から)	下:調査区北半全景(東から)
3 第170-3次調査	上:南調査区全景(北から)	下:北調査区全景(南から)
4 第170-4次調査	上:調査区全景(北から)	下:SD10278(南から)
5 第170-6・7次調査	上:6次調査区全景(南から)	下:7次調査区全景(東から)
6 第170-8・9次調査	上:8次調査区全景(北から)	下:9次調査区全景(北から)
7 第170-10・11次調査	上:10次調査区全景(西から)	下:東辺調査区(北から)
8 第170-12・13次調査	上:12次調査区全景(西から)	下:13次調査区全景(東から)



第1図 発掘調査地区位置図 (1:10,000)

# I 前 言

史跡斎宮跡では、平成22年度に65件の現状変更等許可申請が提出された。史跡指定後、年間約40～50件程度で推移してきたが、中部電力やN T T 西日本による電柱等の整備のために電柱・支線の新設・改修等の現状変更が18件と集中したため、現状変更件数は例年に比べて多くなった。

電柱以外には、史跡内住民による個人住宅等の新築、明和町による下水管の整備、道路の修繕、三重県による博物館改修工事などがあるが、このうち、発掘調査が必要となった案件は13件で、総面積448.2㎡の調査を行った。

第170-1次は倒木の抜根に伴う調査、第170-2・3・4・9・10・11・12次調査は個人住宅の新築・改築に伴う調査で、建物の基礎にあたる部分を中心に、第170-6・8次調査は浄化槽の設置に伴い浄化槽位置の調査、第170-7・13次調査は宅地・駐車場造成に伴う調査を行った。

第170-5次調査は近鉄線敷地内の鉄塔の整備に伴う調査で、保安面から電車の走行していない夜間の調査となった。

平成22年度の史跡現状変更に伴う調査は、小規模なものが多く、斎宮跡の実態解明にとって重要な成果をもたらすものではなかったが、住宅密集地における遺構の密度や遺構面の高さなど、史跡保護に係る貴重なデータの蓄積がなされたことを評価したい。

年度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積(㎡)	うち補助金調査件数	同調査面積(㎡)
S54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
H元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	39	6	832	2	452
10	28	4	882	2	396
11	37	8	816	3	186
12	42	10	512	8	469
13	38	14	439	5	409
14	39	22	760	4	304
15	44	19	1,558	8	1,124
16	43	24	2,372	7	762
17	31	14	3,002	8	338
18	31	13	2,171	8	335
19	50	12	374	11	270
20	41	6	237	5	150
21	56	5	790	3	45
22	65	13	448.2	13	448.2
計	1,429	358	63,194.2	217	24,278.2

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移

## Ⅱ 調査報告

### 1 第170-1次調査(6AR11)

調査場所 三重県多気郡明和町斎宮字柳原2779,2779-1

原因 樹木撤去及び抜根

調査期間 平成22年4月19日～23日

調査面積 64㎡

#### 調査概要

第170-1次調査は、史跡中央部、竹神社の北側に位置する雑種地で台風による倒木の抜根に伴い実施した。

申請地は方格地割の牛葉東区画にあたり、南の隣接地では平成6年度に第108次調査が実施され、区画道路南側溝や多くの掘立柱建物等が確認されている。

調査は、抜根範囲に幅約4m、長さ16mの調査区を南北方向に設定して実施した。遺構検出面までの深さは、現地表面から約0.3～0.4mである。

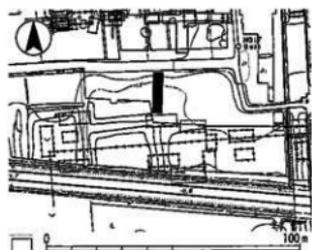
基本層位は、表土・灰黄褐色～暗灰黄色砂質土・明黄褐色粘土(地山)で、遺構検出面は標高約10.0～10.3m、南から北に向かって緩やかに傾斜する。

検出した遺構は、土坑2基、溝2条で、遺物はコンテナで約6箱出土している。

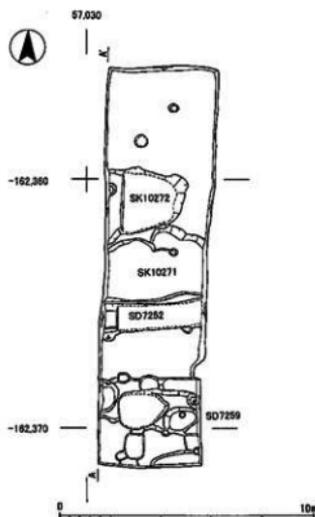
溝SD7252は幅1.2mの東西溝で、検出面からの深さは約0.8m、位置から見て東西区画道路の南側溝にあたる。掘削は一部に留めており、西端にトレンチを入れて深さを確認した。遺物はほとんど出土していない。

土坑SK10271は溝SD7252の北側に広がる土坑で、幅約2.6m、検出面からの深さ約25cmと浅く、灰釉陶器Ⅸ(9～11)から斎宮Ⅱ-3～4期に比定できる。

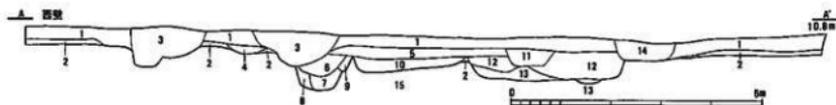
土坑SK10272はSK10271の北側で検出した南北約3m、西側は調査区外に伸び長さ3m以上、深さは検出面から約0.4mで、斎宮Ⅱ-3～4の土師器(12～16)が出土している。



第2図 調査区位置図(1:2,000)

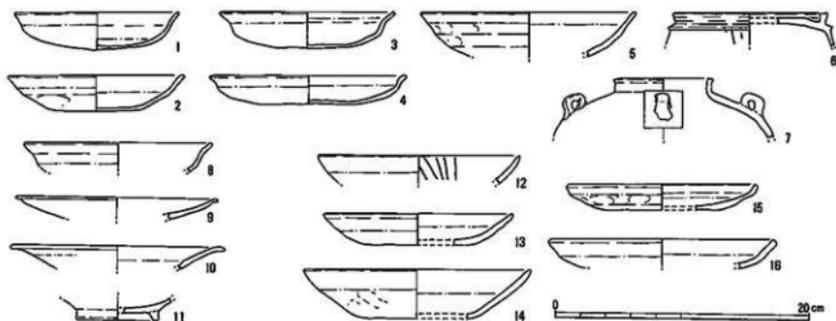


第3図 第170-1次調査 遺構平面図(1:200)



- |                          |  |                             |
|--------------------------|--|-----------------------------|
| 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2〔表土〕)   | 7 黒褐色砂質土(10YR3/1)ににぶい黄褐色砂質土(10YR7/4)少し含む〔SD7252〕 | 11 黄灰色砂質土(2.5Y5/1〔溝Ⅸ〕)      |
| 2 灰黄褐色砂質土(10YR6/2)       | 8 にぶい黄褐色砂質土(10YR6/2)〔SD7252〕                     | 12 黒褐色砂質土(10YR3/1)〔SK10271〕 |
| 3 暗灰色砂質土(10YR4/1)〔溝Ⅸ〕    | 9 黒褐色砂質土(10YR3/1)                                | 13 暗灰色砂質土(10YR4/1)〔SK10271〕 |
| 4 黄灰色砂質土(2.5Y4/1)        | 10 暗灰色砂質土(2.5Y5/2)〔SK10272〕                      | 14 にぶい黄褐色砂質土(10YR7/4)〔溝Ⅸ〕   |
| 5 暗灰色砂質土(2.5Y4/2)        |  | 15 明黄褐色粘土(10YR7/6)〔地山〕      |
| 6 黒色砂質土(10YR2/1)〔SD7252〕 |  |                             |

第4図 第170-1次調査 遺構断面図(1:100)



第5図 第170-1次調査 出土遺物実測図(1:4) 1~7: S D 7259、8~11: S K 10271、12~16: S K 10272

S D 07259は、調査区の南側にある幅1.7m、深さ0.1mの東西溝で、擾乱や土坑と重複する。出土した遺物には、斎宮Ⅱ-3期の土師器(1~5)のほか、須恵器壺(7)、円面硯(6)など時期の古い遺物も混在する。位置的には西側の第108次調査で検出した平安時代前期の東西溝S D 7259の延長上にあることから同一の溝としたが、新しい遺物もあることから重複する土坑の遺物が混入した可能性もある。

この他、調査区南端には小規模な土坑が複数検出されているが、詳細は不明である。

## 2 第170-2次調査(6AK4・5)

調査場所 三重県多気郡明和町竹川字古里579-1

原因 住宅新築

調査期間 平成22年4月5日~16日

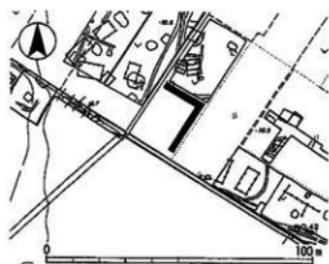
調査面積 94.2㎡

調査概要 第170-2次調査は、斎宮歴史博物館北側で個人住宅の新築に伴い実施した。周辺の調査は、昭和63年度に北側で第76-10次調査、昭和56年度に西側で第39次調査が行われており、奈良時代の竪穴住居・掘立柱建物、鎌倉時代の掘立柱建物・溝・土坑などを確認した。また、南面する道路では、側溝の敷設に伴う第81-2次調査が平成元年度に行われ、鎌倉時代の溝等を確認している。

調査は、幅約2mのトレンチを逆L字状に延長36m設定して実施した。遺構面までの深さは1.1mで、基本層位は0.7mの盛土・旧表土・黒色砂質土(土器片含む:包含層)・黄褐色シルト質土(地山)で、調査区北側では厚さ0.1~0.2mの黒色シルト質土(地山)を黄褐色シルト質土上面で確認した。遺構検出面の標高は約10mである。S D 5521等の鎌倉時代の遺構は、包含層上面から切り込んでいるのに対して、北側の柱穴類は包含層下面から切り込んでいることが確認できることから、包含層の時期は奈良時代以降から鎌倉時代と推定できる。

検出した遺構は、奈良時代の掘立柱建物1棟のほか、室町時代の土坑2基・溝3条があり、出土した遺物はコンテナで4箱ある。

掘立柱建物S B 10275は、南北調査区の中央部で検出した南北2間、東西は西側に1間分確認しており、東西2間以上の南北棟になる可能性が高い。棟方向は北で西に13度振れるもので、桁行柱間2.3m等間、梁行柱間は1.5mと狭い。西側の第39次調査の奈良時代の掘立柱建物では梁行柱間3間のものが3棟近く確認されており、梁行きが狭いと言うことから今回検出した建物も梁行き3間になる可能性もある。柱

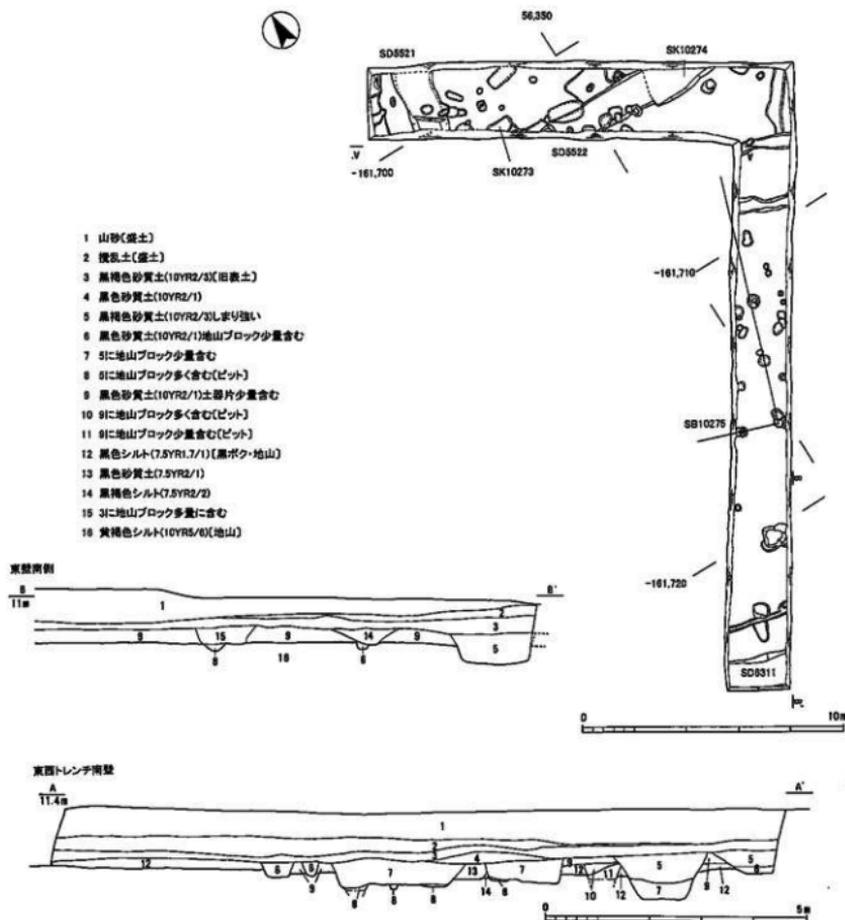


第6図 調査区位置図(1:2,000)

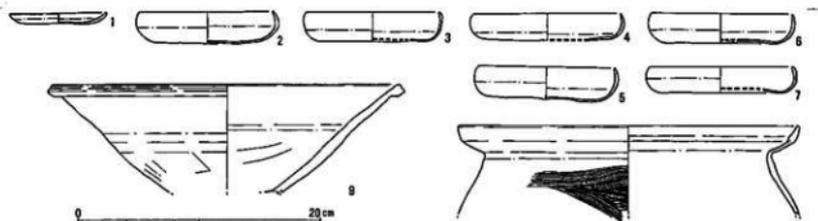
穴は径約0.5mの円形で、柱穴から出土した遺物は少ないが奈良時代と考えられる。

S D5521・5522は北側の第76-10次調査から続く溝である。S D5521は調査区の北西端で検出した南北溝で、幅約1.3m、検出面からの深さ約0.4mであるが、壁面の土層で確認したところ、包含層上面から切り込んでおり深さは約0.9mとなる。S D5522はS D5521の東側で検出した東西溝で、幅約1.4m、検出面からの深さ約0.3mで、壁面土層では深さは0.5mとなる。調査区の南端にあるS D6311は、第81-2次調査から続くもので、幅1.5m程度に復元でき、遺構検出面からの深さは0.3mである。

土坑は調査区北側西側で主に検出した室町時代のものがある。S K10273は調査区外に延びる1mほどの土坑で、包含層上面から切り込んでおり、土層図では深さは0.4mあり、陶器鉢(9)が出土した。S K10274はS D5522と重複するもので、東西2m、深さは約0.2m、礫とともに土師器杯・小皿(1~6)などを出土した。



第7図 第170-2次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)



第8図 第170-2次調査 出土遺物実測図(1:4) 1~6:SK10274、7・8:SD5522、9:SK10273

### 3 第170-3次調査(6AM14)

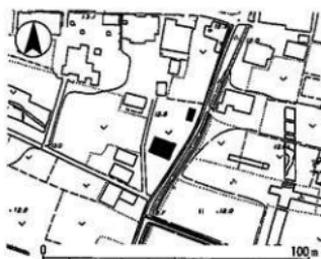
調査場所 三重県多気郡明和町斎宮宇木葉山95-1

原因 住宅新築

調査期間 平成22年6月2日~9日

調査面積 62m<sup>2</sup>

調査概要 第170-3次調査は、史跡南部に位置する畑地において住宅の新築に伴い実施した。調査地は方格地割の南西端にある木葉山西区画の西側にあたり、敷地の北側では、平成19年度に住宅新築に伴う第155-2次調査が実施されている遺構密度の薄い地区である。

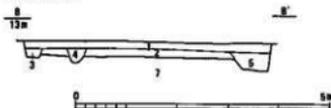


第9図 調査区位置図(1:2,000)

南調査区東壁



北調査区東壁



- 1 黒褐色土(10YR3/1)(表土)
- 2 灰黄褐色土(10YR6/2)
- 3 黄灰色土(2.5Y4/1)
- 4 黒色土(6YR1.7/1)
- 5 黒色土(6YR1.7/1)に地山ブロック混じる
- 6 黒褐色土(2.5Y3/1)に地山ブロック混じる
- 7 黄褐色粘土(10YR7/6)(地山)



-102.820



56.545

56.535

-102.835

第10図 第170-3次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)

調査は、6.5×8.0mおよび浄化槽位置に2.5×4.6mの調査区を設定して実施した。表土から遺構面までは0.3mと浅く、基本層位は表土・灰黄色土・黄橙色粘土(地山)で、遺構検出面の標高は約12.2mである。

今回の調査では、複数の土坑、柱穴を検出したが、出土遺物がなく時期を特定できなかった。大半の遺構は灰黄褐色土上面から切り込んでいるもので攪乱類と思われる。

なお、調査区全体でも出土した遺物はコンテナで1/2箱と少なく、土師器杯など室町時代のものを中心とする。

#### 4 第170-4次調査(6AR13)

調査場所 三重県多気郡明和町斎宮字鈴池561-1

原因 住宅新築

調査期間 平成22年7月6日～20日

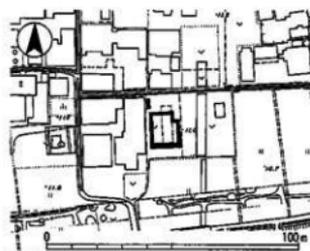
調査面積 60㎡

調査概要 調査地は、史跡南部に位置する畑地である。耐震対策のため鋼管杭を打設することから、住宅の基礎部分の調査と合併浄化槽設置に伴う調査を実施した。方格地割では、内院に比定されている牛葉東区画の南側の鈴池西区画の南側中央に位置する。表土から遺構面までの深さは0.3mと浅く、基本層位は表土・黒色土・黄橙色粘土(地山)で、遺構検出面は標高10.7mである。

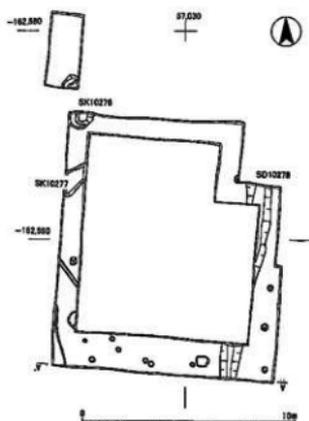
調査の結果、検出した遺構には溝1条と土坑2基があり、遺物はコンテナで3箱出土した。

溝SD10278は、幅約1.2m、深さ約15cmの南北溝で、溝の方向は北で東に5度振れる。遺物は、平安時代後期の土師器杯などをコンテナで1/6箱出土した。

土坑SK10276は南と北側調査区に跨るもので、南北2.6m、深さ0.6mで、両調査地から出土した土師器杯が接合したことから同一遺構とした。平安時代後期の土師器杯・甕などがコンテナで1/6箱が出土した。土坑SK10277は調査区西北にある斜行する幅1.2m、長さ1.5m以上、深さ0.2mで、当初は溝として掘削したが、東北部の調査区では延長部が確認されていないことから土坑とした。遺物は少なく、平安時代前期の土師器杯などがコンテナで1/12箱出土した。



第11図 調査区位置図(1:2,000)

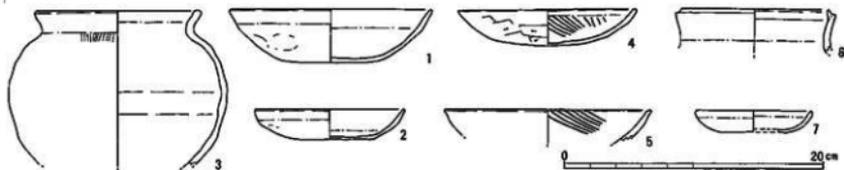


第12図 第170-4次調査 遺構平面図(1:200)



- 1 黒褐色土(10YR2/1)(表土)
- 2 黒色土(6YR1.2/1)(に地山ブロック混じる)
- 3 黒色土(6YR1.7/1)(SD)
- 4 黒褐色土(2.5Y2/1)
- 5 黄褐色粘土(10YR7/6)(地山)

第13図 第170-4次調査 土層断面図(1:100)



第14図 第170-4次調査 出土遺物実測図(1:4) 1~3:SK10276、4~6:SK10277、7:SD10278

## 5 第170-5次調査(6AM11)

調査場所 三重県多気郡明和町斎宮字広頭3881-9・10

原因 鉄塔撤去及び新設

調査期間 平成22年7月9日~10日

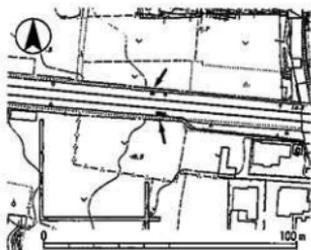
調査面積 8㎡

調査概要 調査地は、史跡中央部に位置する近鉄線敷地内で、近鉄斎宮駅の西側約200mの位置で、方格地割の外側にあたる場所である。

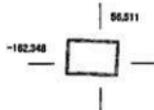
老朽化による強度不足の鉄道用支持物(鉄柱)の建替えに伴い、基礎部分2箇所それぞれ2m四方の範囲について調査を実施した。線路敷地は周辺より一段低くなっており、遺構の多くは線路敷設時に削平されていることが予想された。また、調査の時間は、電車の終了した夜中から始発までの間と、時間的な制約を受けた調査であった。

調査の結果、軌道の下では削平をあまり受けていないため、碎石等盛土の直下には遺構面が残存しており、南側調査区では、北西部で土坑1基を検出することができた。

土坑は東西1.5m以上、南北0.32m以上、深さ0.15mで、埋土は黒褐色砂質土であることから遺構と判断できるが、遺物が出土していないため詳細は不明である。

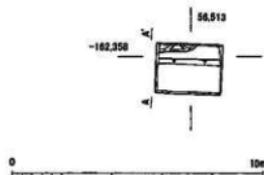


第15図 調査区位置図(1:2,000)



- 1 碎石
- 2 暗褐色砂質土
- 3 暗褐色砂質土(覆土)
- 4 黒褐色砂質土
- 5 黄褐色粘土(地山)

第16図 第170-5次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)



## 6 第170-6次調査 (6A P13)

調査場所 三重県多気郡明和町斎宮字牛業3021-3

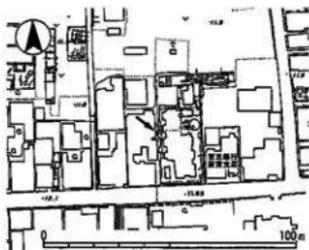
原因 浄化槽撤去および設置

調査期間 平成22年9月27日

調査面積 3㎡

調査概要 調査地は、史跡中央部に位置する宅地で、合併浄化槽の埋設に伴い、発掘調査を実施した。

調査は、合併浄化槽を設置するために必要な1.4×2.1mの範囲を約1.7m掘削したが、遺構は攪乱により削平されており、遺構・遺物は確認されなかった。



第17図 調査区位置図 (1:2,000)

## 7 第170-7次調査 (6A R8)

調査場所 三重県多気郡明和町斎宮字西前沖2646-2

原因 進入路及び駐車場造成

調査期間 平成22年8月23日～27日

調査面積 10㎡

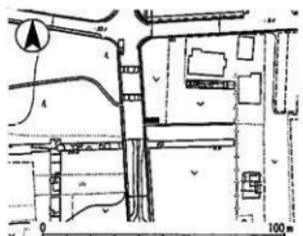
調査概要 調査地は、史跡中央部に位置する畑地で、方格地割の西加座北区画の北側に位置する。個人住宅への進入路の造成に伴い、5m×2m調査区を設定して発掘調査を実施した。

表土から遺構検出面までの深さは0.3mで、基本層位は表土・にぶい黄褐色砂質土・黄褐色粘土(地山)で、遺構検出面の標高は9.5mで、鎌倉時代の溝2条を確認し、遺物はコンテナで1箱出土した。

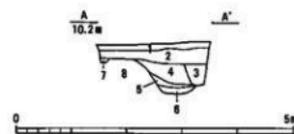
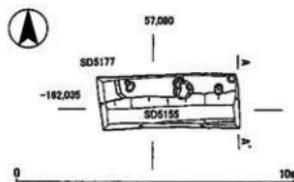
東西溝SD5155は、東側の敷地で行った昭和63年度の第70-10次調査から続く溝である。幅1.2m、深さ0.6m、鎌倉時代の遺物を少量出土した。第76-10次調査でのSD5155は幅が約2mで北側が一段深くなっており2条の溝が重複している状況を呈している。

今回の調査では、SD5155より新しい北側だけ確認した溝が、調査区西側で北方向に折れ曲がる事が確認されており、西北側での深さは0.2mで東端では0.4mと深くなる。

北側の昭和63年に行われた第70-15次調査では、延長部に南北溝SD5177が位置しており、同一の溝になるものと思われ、第70-10次調査のSD5155は北側から東に折れ曲がるSD5177と重複しているものと考えられる。



第18図 調査区位置図 (1:2,000)



- |  |  |
|--|--|
| 1 灰黄褐色砂質土(10YR5/2)(表土)                               | 5 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)に明黄褐色粘土ブロック(10YR7/6)含む(SD5155) |
| 2 にぶい黄褐色砂質土(10YR6/3)(床土)                             | 6 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)に明黄褐色粘土ブロック(10YR7/6)含む(SD5155) |
| 3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)ににぶい黄褐色粘土ブロック(10YR7/6)含む(SD5177) | 7 褐灰色砂質土(10YR5/1)(ピット)                           |
| 4 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)(SD5155)                           | 8 黄褐色粘土(10YR5/6)(地山)                             |

第19図 第170-7次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)

## 8 第170-8次調査 (6AV13)

調査場所 三重県多気郡明和町斎宮字苗川1056

原因 浄化槽撤去及び埋設

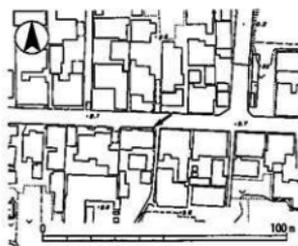
調査期間 平成22年8月2日

調査面積 3㎡

調査概要 調査地は、史跡東南部に位置する宅地である。合併浄化槽の埋設に伴い、発掘調査を実施した。

調査は、南北約2.3m、東西約1.3mの範囲を0.8m掘削して、遺構検出面を確認したが、調査区の北半分は攪乱を受けており、遺構・遺物は確認できなかった。

なお、遺構検出面は、標高約9mである。



第20図 調査区位置図 (1:2,000)

## 9 第170-9次調査 (6AP12)

調査場所 三重県多気郡明和町斎宮3014-2

原因 住宅新築

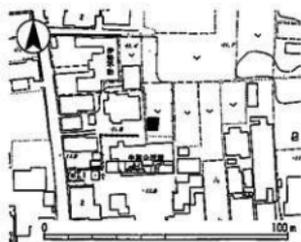
調査期間 平成22年10月6日～12日

調査面積 30㎡

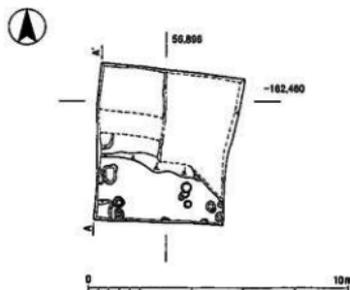
調査概要 調査地は、参宮街道の北側に位置する畑地で、方格地割の牛薬西区画内の中央部西側に位置する。表土から遺構面までの深さは約0.7mで、基本層位は厚さ0.4mの盛土、黒褐色砂質土・にぶい黄褐色シルト(地山)で、遺構検出は標高約11mである。

調査は、合併浄化槽を設置するために南北6m×東西5mの調査区を設定した。調査の結果、調査区北半分は攪乱によって削平されており、遺構は確認できなかった。また、南側の遺構検出面では径0.3mの柱穴を複数確認しているが、範囲が狭いことから建物としては確認できなかった。

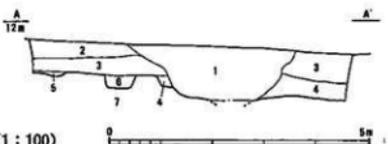
出土した遺物は、コンテナで1/3箱と少ない。



第21図 調査区位置図 (1:2,000)



- 1 明褐色シルト(7.5YR5/8)に2-3及び瓦含む(攪乱)
- 2 山土
- 3 黒褐色砂質土(7.5YR3/1)
- 4 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)瓦片多く含む(攪乱)
- 5 暗褐色シルト(10YR3/3)(攪乱)
- 6 暗褐色砂質土(10YR3/4)炭を含む
- 7 にぶい黄褐色シルト(10YR5/4)(地山)



第22図 第170-9次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)

## 10 第170-10次調査 (6A J13)

調査場所 三重県多気郡明和町斎宮字南裏256-1

原因 住宅新築

調査期間 平成22年10月12日～16日

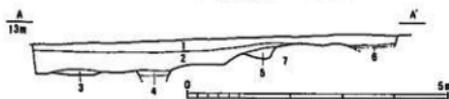
調査面積 38㎡

調査概要 調査地は、史跡南部に位置する畑地である。住宅の新築に伴い、東西7m、南北7.5mの範囲をL字状に調査区を設定して調査を実施した。

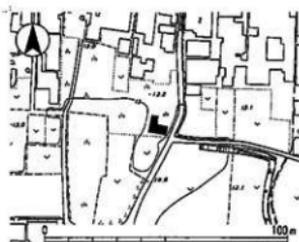
現況は北側が高く、南側との比高差は0.2mある。基本層序は厚さ0.2mの表土・黄橙色粘土(地山)で、南側では全面に攪乱が覆っており、深さは表土から0.6mある。北側の遺構検出面の標高12.6mである。

調査の結果、調査区の大部分が攪乱による削平を受けており、遺構は確認できなかった。また、出土遺物は土師器片等がわずかに出土したのみである。

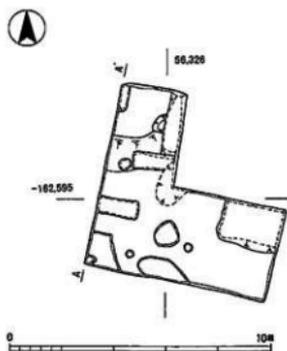
- |                               |                               |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)(表土)        | 4 暗褐色砂質土(7.5YR3/3)(攪乱)        |
| 2 暗褐色砂質土(10YR3/3)(攪乱)         | 5 褐色砂質土(7.5YR4/4)(攪乱)         |
| 3 暗褐色砂質土(7.5YR2/3)に地山粒を含む(攪乱) | 6 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)に地山粒を含む(攪乱) |
|                               | 7 黄橙色粘土(7.5YR7/8)(地山)         |



第24図 第170-10次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)



第23図 調査区位置図(1:2,000)



## 11 第170-11次調査 (6A H12)

調査場所 三重県多気郡明和町竹川字中垣内455-1

原因 住宅建替

調査期間 平成22年12月2日～4日

調査面積 42㎡

調査概要 調査地は、史跡南西部に位置する宅地で、住宅の建替えに伴い鋼管杭打設箇所および浄化槽設置箇所の発掘調査を実施した。

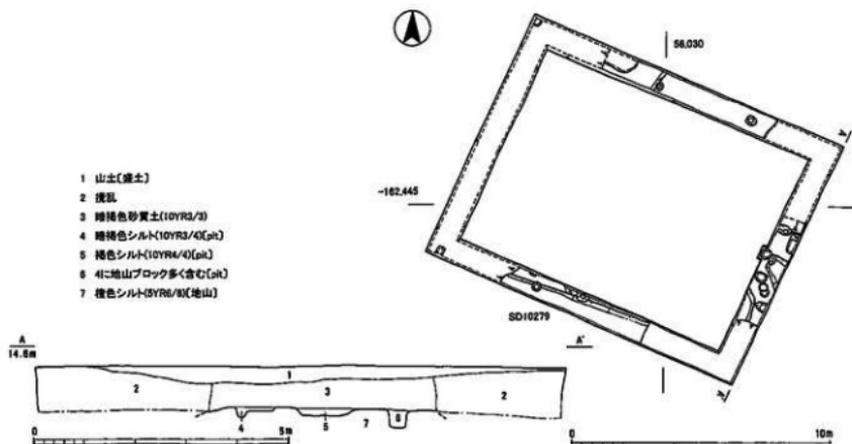
調査は、鋼管杭打設箇所を幅1mの幅で結んでロの字状に調査区を設定して行った。遺構検出面までの深さは、盛土が行われていることから、1～1.2mと深い。基本層位は、盛土・攪乱・橙色シルト(地山)で、遺構検出面の標高は13.4mである。

調査区の大部分は近世以降の攪乱により遺構面は削平されていたが、調査区南側で東西方向に延びる溝1条、調査区東側で柱穴を確認した。出土した遺物はコンテナで1箱と少なく、溝・柱穴等の遺構からは室町時代の土師器片を出土している。

SD10279は、幅0.9m以上、南側土層面で深さ0.5mあることが確認されている。



第25図 調査区位置図(1:2,000)



第26図 第170-11次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)

## 12 第170-12次調査(6AR13)

調査場所 三重県多気郡明和町斎宮字牛葉574-1

原因 住宅撤去及び新築

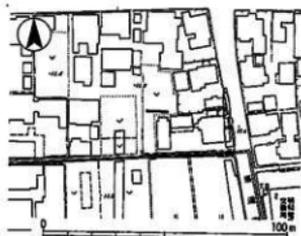
調査期間 平成22年12月6日～7日

調査面積 9㎡

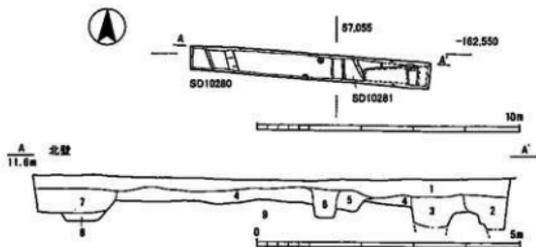
調査概要 調査地は、竹神社南側にある方格地割で言うと鈴池西区画に位置し、住宅の建替えに伴い、幅1m、長さ9mの調査区を設定して調査を行った。

表土から遺構検出面までの深さは0.5mで、基本層位は表土・褐灰色砂質土・明黄褐色粘土(地山)で、遺構検出面は標高11.7mである。調査の結果、南北方向に延びる溝2条とコンテナで1/3箱の遺物を出土した。

溝SD10280は幅0.9m、深さ0.4m、SD10281は幅0.7m、深さ0.2mである。これらの溝の埋土は黒褐色系の色を呈していることから、近代の溝ではないものの出土遺物が少なく時期の比定は難しい。西側のSD10280からは、ロクロ土師器片が出土していることから平安時代後期の範疇であろう。



第27図 調査区位置図(1:2,000)



第28図 第170-12次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)

### 13 第170-13次調査 (6AG11)

調査場所 三重県多気郡明和町斎宮字中垣内460-2・434-7・435-2・436-4・430-6

原因 小屋撤去及び盛土

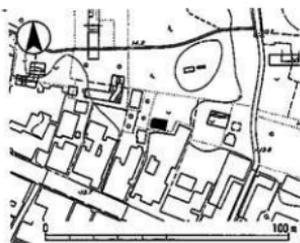
調査期間 平成23年3月1日～4日

調査面積 25㎡

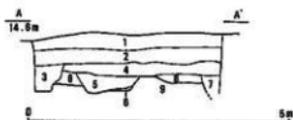
調査概要 調査地は、史跡南西部に位置し、住宅の建築に伴い、盛土箇所を発掘調査を実施した。調査は、南北約4m×東西約6mの調査区を設定して行った。

遺構検出面までの深さは0.9mと深く、基本層位は表土・攪乱・黒褐色砂質土・褐色粘土(地山)で、遺構検出面は標高13.4mである

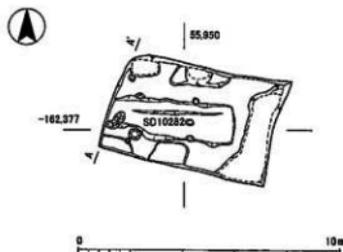
調査の結果、攪乱による削平をうけていたが、東西方向に延びる溝1条を確認した。出土した遺物はコンテナで1/2箱と少ない。SD10282は幅1.2m、深さは0.4mと浅く、東端は途切れる。遺物は少ないが山茶碗片が出土していることから、鎌倉時代の遺構とする。



第29図 調査区位置図 (1:2,000)



- |                                     |                                 |
|-------------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色砂質土(10YR2/2)(表土)               | 5 黒色シルト(10YR2/1)(溝)             |
| 2 黒褐色砂質土(10YR2/1)に<br>瓦片・地山粒含む(覆き土) | 6 黒褐色シルト(10YR2/2)(溝)            |
| 3 黒褐色砂質土(10YR3/1)に<br>地山粒含む(攪乱)     | 7 黒褐色砂質土(10YR2/2)に<br>地山粒含む(覆き) |
| 4 黒褐色砂質土(10YR2/2)(表土)               | 8 黒褐色砂質土(10YR2/2)               |
|                                     | 9 褐色粘土(7.5YR4/4)(地山)            |



第30図 第170-13次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

調査次数	遺構番号	遺構の種類	調査時 遺構名	仮グリッド	時期	齊宮 稲年	遺構の性格・遺物・その他
170-1	S D7259	溝	溝1	11e	平安前期		土師器・須恵器・円面硯
170-1	S K10271	土坑	溝2	11c・11d	平安前期		
170-1	S K10272	土坑	溝3	11c	平安前期		S D7252より新
170-1	S D7252	溝	溝4	11d	平安前期		区画溝南側溝
170-2	S D5521	溝	溝4	2a	室町時代		
170-2	S D5522	溝	溝3	2b・2c・2d	室町時代		
170-2	S D6311	溝	溝1	7d	室町時代		
170-2	S K10273	土坑	土坑4	2b	室町時代		
170-2	S K10274	土坑	土坑3	2c・2d	室町時代		
170-2	S B10275	掘立柱建物		3d～5d	奈良時代か		南北3間以上、東西2間以上 4dpit3・4dpit1・5dpit1・5dpit2・5dpit3
170-4	S K10276	土坑	土坑1		平安前期		
170-4	S K10277	土坑	溝2		平安前期		
170-4	S D10278	溝	溝1		平安後期		
170-7	S D5155	溝			鎌倉時代		
170-7	S D5157	溝			鎌倉時代		S D5155より新
170-11	S D10279	溝	溝1		室町時代		
170-12	S D10280	溝	溝1		平安後期		
170-12	S D10281	溝	溝2		平安後期		
170-13	S D10282	溝	溝1		鎌倉時代		

第2表 第170次調査 遺構一覧表

## 第170-1次

番号	器種	形状	地区・遺跡	抜量 (cm)	調査・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	土師器	杯	S D7259	口径 12.9 高さ 3.1	口縁部:ヨコナデ 体部外面:オサエ・ナデ、内面:ナデ	密	良	灰に濃い黄7.5Y R7/4	口縁部6/12		001-06
2	土師器	杯	S D7259	口径 13.7 高さ 3.1	口縁部:ヨコナデ 体部外面:オサエ・ナデ、内面:ナデ	密	良	灰に濃い黄橙10Y R7/4	口縁部5/12		001-05
3	土師器	杯	S D7259	口径 13.9 高さ 3.0	口縁部:ヨコナデ 体部外面:オサエ・ナデ、内面:ナデ	密	良	淡黄橙5Y R6/6	口縁部2/12		001-08
4	土師器	皿	S D7259	口径 15.2 高さ 2.4	口縁部:ヨコナデ 体部外面:オサエ・ナデ、内面:ナデ	密	良	橙2.5Y R6/6	口縁部3/12		001-07
5	土師器	碗	S D7259	口径 16.6	口縁部:ヨコナデ 体部外面:オサエ・ナデ、内面:ナデ	密	良	橙5Y R7/6	口縁部4/12		001-04
6	須恵器	門蓋	S D7259	口径 11.8	体部内外面:ヨコナデ 体部外面:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	口縁部2/12		001-03
7	須恵器	磁	S D7259	口径 7	口縁部:ロクロナデ 体部内外面:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/	口縁部2/12	取耳遺	002-01
8	土師器	杯	S K10271	口径 14.6	口縁部:ヨコナデ 体部外面:オサエ・ナデ、内面:ナデ	密	良	橙2.5Y R6/6	口縁部1/2		003-01
9	土師器	皿	S K10271	口径 15.6	口縁部内外面:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/2	口縁部1/12		003-03
10	灰釉陶器	碗	S K10271	口径 16.2	口縁部内外面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	口縁部1/12		003-02
11	灰釉陶器	碗	S K10271	口径 5.8	体部内外面:ロクロナデ 底部:胎付高台、糸切り痕	密	良	灰黄2.5Y7/2	底部5/12		003-04
12	土師器	杯	S K10272	口径 15.8	口縁部:内外面:ヨコナデ、内面に放射状暗文 体部内面:オサエ・ナデ	密	良	淡黄橙5Y R6/6	口縁部2/12		004-01
13	土師器	杯	S K10272	口径 14.6 高さ 2.6	口縁部:内外面:ヨコナデ 体部内面:ナデ、外面:オサエ・ナデ	密	良	橙5Y R7/6	口縁部3/12		004-03
14	土師器	杯	S K10272	口径 17.8 高さ 4.0	口縁部:内外面:ヨコナデ 体部内面:ナデ、外面:オサエ・ナデ	密	良	橙5Y R6/6	口縁部1/12		004-04
15	土師器	皿	S K10272	口径 14.6 高さ 2.1	口縁部:内外面:ヨコナデ 体部内面:ナデ、外面:オサエ・ナデ	密	良	橙5Y R7/6	口縁部5/12		001-01
16	土師器	皿	S K10272	口径 17.4 高さ 2.4	口縁部:内外面:ヨコナデ 体部内面:ナデ、外面:オサエ・ナデ	密	良	橙5Y R6/6	口縁部2/12		004-02

## 第170-2次

番号	器種	形状	地区・遺跡	抜量 (cm)	調査・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	土師器	小皿	S K10274	口径 7.9 高さ 0.9	口縁部:ヨコナデ 体部内外面:ナデ	密	良	淡黄橙7.5Y R8/6	口縁部8/12		006-01
2	土師器	杯	S K10274	口径 10.7 高さ 2.7	口縁部:ヨコナデ 体部外面:オサエ・ナデ、内面:ナデ	密	良	淡黄橙10Y R8/3	口縁部11/12		006-06
3	土師器	杯	S K10274	口径 10.8 高さ 2.5	口縁部:ヨコナデ 体部外面:オサエ・ナデ、内面:ナデ	密	良	淡黄橙10Y R8/3	口縁部10/12		006-03
4	土師器	杯	S K10274	口径 12.1 高さ 2.3	口縁部:ヨコナデ 体部外面:オサエ・ナデ、内面:ナデ	密	良	淡黄橙7.5Y R8/3	口縁部4/12		006-02
5	土師器	杯	S K10274	口径 11.1 高さ 2.9	口縁部:ヨコナデ 体部外面:オサエ・ナデ、内面:ナデ	密	良	灰白10Y R8/2	ほぼ完成形		006-05
6	土師器	杯	S K10274	口径 11.4 高さ 2.5	口縁部:ヨコナデ 体部外面:オサエ・ナデ、内面:ナデ	密	良	灰白10Y R8/2	口縁部4/12		006-04
7	土師器	杯	S D5522	口径 11.5 高さ 2.2	口縁部:ヨコナデ 体部外面:オサエ・ナデ、内面:ナデ	密	良	灰白10Y R8/2	口縁部6/12		006-01
8	土師器	碗	S D5522	口径 27.7	口縁部:ヨコナデ 体部外面:タテハチ、内面:ナデ	密	良	灰に濃い黄橙10Y R7/3	口縁部2/12		006-02
9	陶器	鉢	S X10273	口径 28.5	体部内外面:ロクロナデ	密	良	灰Y6/1	口縁部6/12		007-01

## 第170-4次

番号	器種	形状	地区・遺跡	抜量 (cm)	調査・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	土師器	杯	S K10276	口径 15.4 高さ 4.3	口縁部:ヨコナデ 体部外面:オサエ・ナデ、内面:ナデ	密	良	橙7.5Y R7/6	口縁部4/12		008-02
2	土師器	杯	S K10276	口径 11.4 高さ 2.4	口縁部:ヨコナデ 体部外面:オサエ・ナデ、内面:ナデ	密	良	淡黄橙7.5Y R8/4	口縁部6/12		008-01
3	土師器	壺	S K10276	口径 12.5	口縁部:ヨコナデ 体部外面:タテハチ・ナデ、内面:オサエ・ナデ	密	良	橙7.5Y R7/6	口縁部2/12	体部外面 又ス付君	008-03
4	土師器	杯	S K10277	口径 13.6 高さ 2.9	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ヘラケズリ、内面:ナデ・ヘタミガキ	密	良	橙2.5Y R6/8	口縁部5/12		009-01
5	土師器	杯	S K10277	口径 15.8	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ヘラケズリ、内面:ナデ・ヘタミガキ	密	良	橙2.5Y R6/6	口縁部1/12		009-02
6	土師器	壺	S K10277	口径 12.5	口縁部:ヨコナデ	密	良	橙7.5Y R7/6	口縁部1/12		009-03
7	土師器	皿	S D10278	口径 8.8 高さ 1.7	口縁部:ヨコナデ 体部外面:オサエ・ナデ、内面:ナデ	密	良	外:灰白10Y R8/2 内:赤褐色5Y R4/6	口縁部1/12		009-04

第3表 第170次調査 出土遺物観察表

## 付編 史跡現状変更等許可申請

平成22年度に提出された史跡現状変更等許可申請は、65件である。発掘調査を行ったのは、前年度申請分も含め17件で、内訳は、史跡の実態解明のための計画発掘調査が4件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが13件（うち前年申請分3件）である。

65件の申請の内48件は、宅地敷地内における個人住宅の建設など小規模であったり、工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさないものである。なお、基礎掘削工事にあたっては斎宮歴史博物館並びに明和町斎宮跡課職員の立会いのもとで実施している。

22年度の申請の内容は、一覧表（第4表）のとおりであり、これらの申請を（A）個人等から申請されるもの、（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴うもの、（C）史跡環境整備および維持管理等に伴うもの、（D）発掘調査のための申請に分けることができる。

### （A）個人等による申請

個人等による申請は、住宅等建設、解体に伴うもので23件あった。うち住宅増築、浄化槽設置など発掘調査が必要とされた13件のうち、10件（第170-3・5～13次調査）について調査を行い、3件は着工時期の関係で次年度調査とした。

他の13件については、個人住宅建築や撤去、工作物の設置等で土地利用区分の第四種保存地区にあたり、工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

### （B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

この申請は25件の提出があった。その内容は、道路修繕等が2件、上下水道管の埋設関係が4件、小学校整備関係が1件、電気・電話・鉄道関係が20件あり、工事立会いで着工している。

### （C）史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

この申請は13件あり、史跡公園のトイレの水洗化や散策道のパーフリー化など施設の改修に伴うものや看板の設置、樹木の植栽などである。

### （D）発掘調査のための申請

この申請は次年度調査（第172次調査）の申請を含め4件の提出があった。これは、三重県が主体となって斎宮歴史博物館が実施している計画発掘調査で、当該年度は、884㎡（第167次・第168次・第169次・第171次調査）が調査された。

これらの内容については斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行されている。

（中野敬夫）

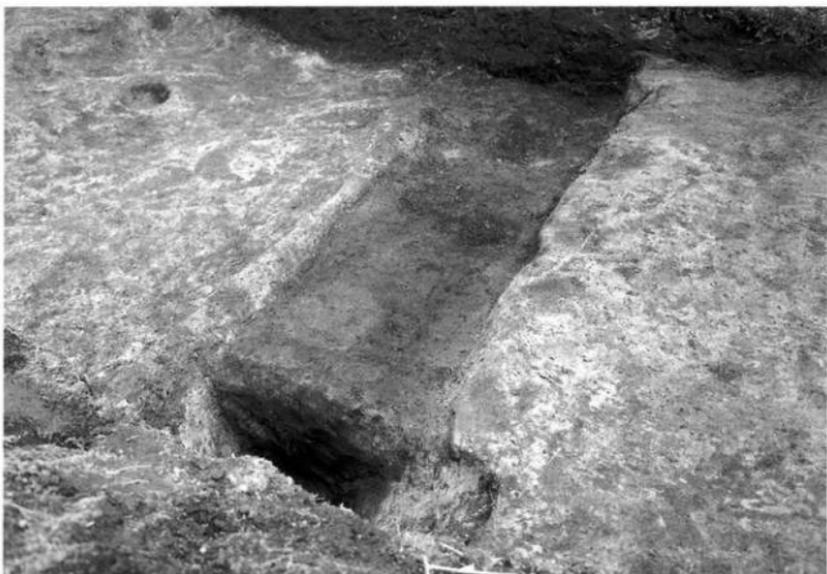
	申請地	種別	申請者	変更内容	申請日	許可日	変更面積	区分	備考
1	宮宮字木葉山4157	A	個人	倉庫新築	H22.4.7	H22.5.21	28㎡	4	
2	宮宮字牛草324	A	個人	住宅増築	H22.4.8	H22.5.21	9.8㎡	4	
3	宮宮字木葉山95-1	A	個人	住宅新築	H22.4.9	H22.5.21	90.59㎡	3	第170-3次
4	竹川字古里579-1・2	B	中野電力(松原営業所)	電柱・支線の設置	H22.4.13	H22.4.19	2本	3	
5	宮宮字東殿2917-6、2918-11	A	個人	住宅新築	H22.4.14	H22.5.21	59.14㎡	4	
6	宮宮字牛草地区内	B	明和町(建設課)	転写防止柵設置	H22.4.12	H22.4.28	L=61m	3	
7	宮宮字御治山2370-5 願名庭外4095-6	C	明和町町土文化を守る会	樺柱の立て替え	H22.4.26	H22.4.27	2か所	2	
8	宮宮字牛草3403-2・6-10	A	多気郡農業協同組合	排水溝及びブロック舗道の設置	H22.4.26	H22.5.21	L=70m	4	
9	宮宮字留川11050-1	A	個人	小屋撤去	H22.5.10	H22.6.18	1棟	4	
10	宮宮字広瀬2381-9、-10	B	近畿日本鉄道株式会社	鉄塔撤去及び新設	H22.5.10	H22.6.18	2か所	4	第170-5次
11	宮宮字東加加2431-2・2432-2、2433-1	A	個人	倉庫新築	H22.5.12	H22.6.18	136.94㎡	2	
12	宮宮字柳原2779-14外	D	三重県	発掘(計画)調査	H22.5.20	H22.6.18	37㎡	1	第171次調査
13	竹川字南敷233-3	A	個人	住宅撤去	H22.5.13	H22.6.14	1棟	4	
14	宮宮字西加加2675-1、-2	D	三重県	発掘(計画)調査	H22.5.20	H22.6.18	239㎡	1	第168次調査
15	宮宮・竹川地区内	C	明和町町土文化を守る会	樺柱の建て替え	H22.6.1	H22.6.14	7か所	2・3・4	
16	宮宮字東殿2890-5	A	個人	テラス及びフェンスの設置	H22.6.4	H22.7.16	31.2㎡	4	
17	宮宮字牛草2998-1、3008-1	B	中野電力(松原営業所)	電柱・支線の撤去・新設	H22.6.11	H22.6.24	2か所	3	
18	宮宮字西前沖2646-2、2645-3	A	個人	進入路および駐車場造成	H22.6.15	H22.7.16	187㎡	2	第170-7次
19	宮宮字留川11056	A	個人	浄化槽撤去及び増設	H22.6.16	H22.7.16	1基	4	第170-8次
20	竹川字中庭内450-29外4棟	A	個人	小屋撤去及び盛土	H22.6.17	H22.7.16	272㎡	3	第170-13次
21	宮宮字柳原2779-2外	C	三重県	地盤及び地下水調査	H22.6.28	H22.7.16	194㎡	1	
22	竹川字中庭内445-1	A	個人	樹木撤去及び伐根	H22.6.29	H22.8.17	1本	2	
23	竹川字古里566	C	三重県	仮設プレハブ設置	H22.7.22	H22.7.26	2棟	3	
24	宮宮字牛草3014-2	A	個人	住宅新築	H22.8.2	H22.9.17	57.96㎡	3	第170-9次
25	宮宮字東加加2431-2	B	中野電力(松原営業所)	電柱の撤去・新設	H22.7.12	H22.7.26	1本	2	
26	竹川字古里547-2	C	三重県	宮宮歴史博物館排水管改修工事	H22.7.15	H22.7.16	L=26m	3	
27	宮宮字牛草3021-3	A	個人	浄化槽撤去及び設置	H22.7.29	H22.9.17	1基	4	第170-6次
28	竹川字南敷256-1	A	個人	住宅新築	H22.8.17	H22.9.17	63.42㎡	3	第170-10次
29	宮宮字柳原2972-1、2973-1	D	三重県	発掘(計画)調査	H22.8.25	H22.9.17	71㎡	1	第169次調査
30	竹川字南敷256-6	B	中野電力(松原営業所)	電柱の撤去・新設	H22.8.30	H22.9.8	1本	3	
31	竹川字中庭内455-1	A	個人	住宅増築	H22.9.10	H22.10.15	133.56㎡	4	第170-11次
32	竹川字古里556	C	三重県	仮設プレハブの設置	H22.9.27	H22.9.27	1棟	3	
34	宮宮字古里3259-1	B	関ワイルコム	コンクリート柱柱替	H22.9.14	H22.9.27	1本	4	
31	宮宮字西前沖2604-17	A	個人	住宅新築	H22.9.14	H22.10.15	50.13㎡	3	
37	竹川字古里566、547-2	C	明和町(畜産課)	コンクリート舗装	H22.9.21	H22.9.28	77.4㎡	3	
35	宮宮字牛草574-1	A	個人	住宅の撤去及び新築	H22.10.12	H22.11.19	114.5㎡	3	第170-12次
36	宮宮字南敷2875-2	A	個人	住宅増築	H22.10.12	H22.11.19	58㎡	4	
38	竹川字東殿357-5	A	個人	住宅増築	H22.11.15	H22.12.10	116.76㎡	4	
39	宮宮字南敷2874-1	A	個人	住宅増築	H22.11.12	H22.12.10	9.5㎡	4	
40	宮宮字西前沖地区内	B	明和町(畜産課)	排水溝設置及び道路舗装	H22.11.17	H22.12.24	L=85m	2	
41	竹川字古里369-19外2棟	C	三重県	掘削調査	H22.11.19	H22.12.10	1棟	1	
42	宮宮字下園2935-2936-2	C	明和町(畜産課)	下水管埋設	H22.11.22	H23.1.21	1基	1	
43	宮宮字下園2810-4	C	明和町(畜産課)	動物舎撤去	H22.11.30	H23.1.21	2棟	1	
44	宮宮字牛草地区内	B	明和町(建設課)	舗装打ち換え及び側溝設置	H22.12.3	H23.1.21	L=70m	3	
45	宮宮字西加加2672-2	C	中野電力(松原営業所)	舗装及び柵設置	H22.12.10	H23.1.21	64㎡L=30.2m	1	
46	竹川字古里559-28	C	畜産課観光協議会	増築	H22.12.16	H23.1.21	5本	1	
47	宮宮字牛草地区内	C	明和町(畜産課)	道路舗装	H23.1.11	H23.1.17	81.96㎡	1	
48	宮宮字東加加地区内	B	明和町(畜産課)	簡易増設	H23.1.11	H23.2.28	6.17㎡	1	
49	竹川字中庭内369-1	C	明和町(畜産課)	車止め設置	H23.1.11	H23.1.28	3か所	1	
50	竹川東殿262外	B	西日本電信電話三重支店	電柱柱替	H23.1.14	H23.1.25	3か所	3	
51	宮宮字広瀬2388-1	B	西日本電信電話三重支店	電柱柱替	H23.1.14	H23.1.25	3か所	4	
52	宮宮字牛草3013-1	B	西日本電信電話三重支店	支線取替	H23.1.14	H23.1.25	1条	4	
53	竹川字東殿274 宮宮字東殿2890-3	B	西日本電信電話三重支店	電柱の柱替え及び新設	H23.1.25	H23.1.31	1か所	3・4	
54	宮宮字福林3134-3	B	西日本電信電話三重支店	支線新設	H23.1.25	H23.1.31	1条	1	
55	宮宮字内山地区内	B	西日本電信電話三重支店	支線取替	H23.2.4	H23.2.10	1条	3	
56	竹川字東殿地区内	B	西日本電信電話三重支店	支線新設	H23.2.4	H23.2.10	1条	1	
57	宮宮字留川2368-4、2345-5	B	近畿日本鉄道株	鉄柱撤去及び設置	H23.2.8	H23.3.18	2か所	3	第174-1調査
58	宮宮字牛草3017-8	B	中野電力(松原営業所)	電柱新設	H23.2.21	H23.2.28	1本	4	
59	宮宮字柳原2672-2	B	中野電力(松原営業所)	支線撤去	H23.2.22	H23.3.2	1条	1	
60	宮宮字東殿2839-1、2831-6	B	西日本電信電話三重支店	支線新設	H23.2.24	H23.3.3	2本	3	
61	宮宮字中寺2749	B	西日本電信電話三重支店	電柱柱替・支柱新設	H23.2.25	H23.3.3	1か所	3	
62	竹川字南敷592	A	個人	住宅増築	H23.3.15	H23.4.15	85.096㎡	3	第174-2調査
63	宮宮字牛草2757	B	竹神社	神社社務所	H23.3.2	H23.4.15	255.5㎡	3	第174-4調査
64	宮宮字柳原2963、2964	C	三重県	発掘(計画)調査	H23.3.17	H23.4.15	370㎡	1	第172次調査
65	宮宮字御治山2735-1	B	西日本電信電話三重支店	電柱柱替	H23.3.24	H23.4.1	1か所	1	

第4表 平成22年度 現状変更等許可申請一覽表

## 写真図版



第170-1次調査区全景（北から）



第170-1次調査SD7252（西から）

写真図版 2



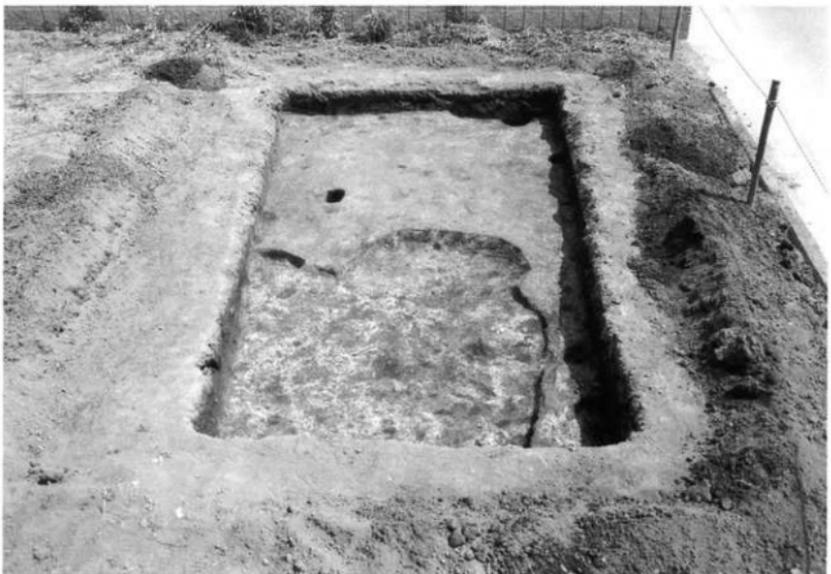
第170-2次調査区東半全景（北から）



第170-2次調査区北半全景（東から）



第170-3次調査南調査区区全景（北から）



第170-3次調査北調査区区全景（南から）

写真図版 4



第170-4次調査区全景（北から）



第170-4次調査 SD10278（南から）



第170-6次調査区全景（南から）



第170-7次調査区全景（東から）



第170-8次調査区全景（北から）



第170-9次調査区全景（北から）



第170-10次調査区全景（西から）



第170-11次調査東辺調査区（北から）



第170-12次調査区全景（西から）



第170-13次調査区全景（東から）

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	しせきさいくうあと へいせいじじゅうにねんどげんじょうへんこうきんきゅうはくつちようきょうこう							
書名	史跡斎宮跡 平成22年度現状変更緊急発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県多気郡明和町斎宮跡埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	28							
編著者名	泉 雄二・中野 教夫							
編集機関	斎宮歴史博物館（調査研究課）・明和町（斎宮跡課）							
所在地	〒515-0332 三重県多気郡明和町大字馬之上945番地 TEL 0596-52-7126							
発行年月日	西暦 2012年3月16日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さいくうあと 斎宮跡	多気郡明和町 斎宮・竹川	24442	210	34° 31' 55" ～ 34° 32' 30"	136° 36' 16" ～ 136° 37' 37"	20100401 ～ 20110331	全13件 448.2㎡	史跡現状変更に伴う緊急発掘調査（史跡斎宮跡第170次調査）
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
斎宮跡第170次	官 衙	奈良・平安 鎌倉以降		掘立柱建物 土坑・溝		土師器 須恵器		
要約	<p>第170次は、史跡内における現状変更に伴う緊急発掘調査である。</p> <p>第170-1次は割木の抜根に伴う調査、第170-2・3・4・9・10・11・12次調査は個人住宅の新築・改築に伴う調査で、建物の基礎にあたる部分を中心に、第170-7・13次調査は宅地・駐車場造成に伴う調査を行った。</p> <p>第170-5次調査は近鉄線敷地内の鉄塔の整備に伴う調査で、保安面から電車の走行していない夜間の調査となった。</p>							

---

史跡 齋宮跡  
平成22年度  
現状変更緊急発掘調査報告

平成24(2012)年3月16日

編 集 齋宮歴史博物館  
明 和 町  
発 行 明 和 町  
印 刷 光出版印刷株式会社

---